

『リハビリテーション・ケアセンター うららか』の軌跡 ～ 実践報告：開設から現在までの振り返り ～

株式会社ハーフ・センチュリー・モア サンシティ木津
山本秀美、古家真優、梅津奈史、石田大貴
奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
池田耕二

サンシティ木津



「おもてなし」の介護で選ばれ続けて40年
サンシティ木津ロイヤルケア

サンシティ木津 ロイヤルケア

リハビリテーション・ケアセンター うららか

お客様一人ひとりの
人生を尊重し、
心のよりどころとなる
リハビリテーションを
提供します。

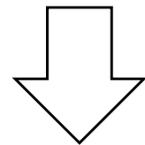


研究の目的

1. リハビリテーション・ケアセンター うららかににおける二年間の実践の振り返りを通して、その成果や課題を明らかにすること
2. 今後の介護付有料老人ホームにおけるリハビリテーション（以下、リハビリ）の方向性を模索すること

研究方法

- 研究デザイン：事例研究法
- うららかの実践内容およびリハビリ参加者の声
- 身体機能の変化
- ケアスタッフの変化



その成果や課題について考察

実践内容の紹介

- リハビリスタッフ：主に理学療法士 3人
非常勤で作業療法士、言語聴覚士 が勤務
- リハビリの対象：介護予防、自立支援、緩和ケアを必要とする
全ての入居者
- 平均年齢：90.1歳
- 性別：男性25人、女性68人
- 要介護度別の人数：自立7人、要支援11人、要介護75人

木津のリハビリの概略

- 個別リハビリ（うららか、居室などで施行）
 - 自立支援型
 - 緩和型
- 集団リハビリ（うららかで施行）
 - 自立支援型
 - 緩和型
- 自立型のリハビリ
 - うららか

集団リハビリの実際（座位での運動）

◆集団体操

- ・月～金曜日10:00～、14:00～の各1時間で実施
 - ・前半(30分)：口腔体操/上肢運動
 - ・後半(30分)：下肢運動/全身運動

◆集団リハビリ

- ・1回/週、14:00～16:00の2時間で実施
 - ・前半(60分)：通常の集団体操と同様
 - ・後半(60分)：ゲームの要素を多く取り入れ、楽しみながら運動
- ・前半と後半の間に水分補給・トイレ休憩あり

成果・結果①

入居者の変化

身体機能の
維持や向上

介助量の軽減

緩和効果

集団リハビリ
を楽しみに

うららかへの
参加に前向き
な発言

うららかへの
移動自体が
気分転換

成果・結果②

ケアスタッフの変化

集団リハビリに参加
(体操指導、集団リハビリ
のプログラム立案と実施)

リハビリに対し協力的に
(個別・集団ともに)

している日常生活活動
(ADL) とできるADL の差に
着目、フロアでの過ごし方や
介助で利用

考察①

うららかな実践の効果や役割は・・・

入居者の身体機能の維持・向上

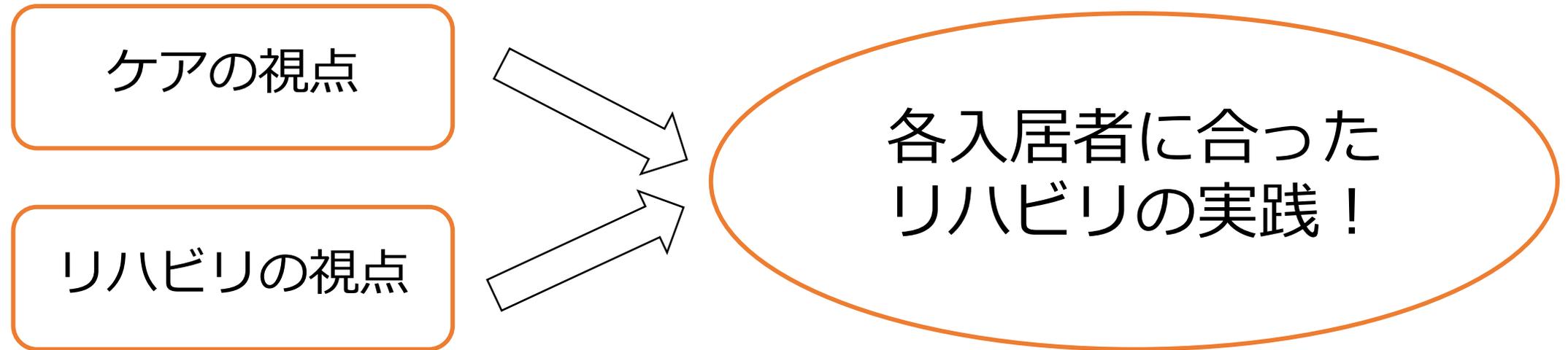
入居者の各動作時の介助量の軽減

緩和ケアとしての役割

- ・リハビリスタッフとの関係性構築によるもの
- ・入居者間のコミュニケーションによるもの

考察②

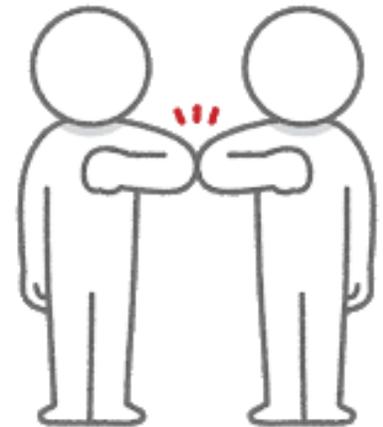
うららかの実践の効果や役割は・・・



介護付有料老人ホームのリハビリは、自立支援だけでなく、
緩和ケアとしての役割を担っている

今後の課題

入居者や家族と、リハビリスタッフやケアスタッフとのコミュニケーションを通して、うららかなのリハビリで生活の質の向上をどのように行うか？



まとめ

- うららかのリハビリで入居者の成果（身体機能の維持・向上、介助量の軽減）を確認できた。
- 集団リハビリの実施で、徐々に各フロアのケアスタッフの協力が得られるようになった。
- うららかの運営にケアスタッフが携わる機会が増え、現在は一緒にプログラムを考え、お互いに協力するようになった。
- 多職種でリハビリを行うことで、入居者を多角的な目線で捉えることができ、より個別性の高いアプローチが可能になっていると考えられる。